

重要取組シート

産業振興局 農政部 農水産課

| 取組項目 | | 地産地消の推進 |
|--------|--------------|--|
| 現状・課題 | | <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○堺産農産物「堺のめぐみ」を商標登録し、42品目を指定している。令和2年度末の商標使用許可件数は、生産者が214件、取扱飲食店が41件となっている。 ○学校給食に関しては堺産の使用量の増加に向けて関係者と調整して増加を図ってきたが、頭打ちの状態である。本市で生産が盛んな軟弱野菜である小松菜は、令和元年の堺産使用率が100%となっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「堺のめぐみ」の商標使用件数が伸び悩んでおり、「堺のめぐみ」の浸透が生産者へも消費者へも不十分である。 ○地元農産物の少量需要に対応でき、かつ生産者が利用しやすい流通体制が確立されていない。 ○学校給食では献立に応じて必要となる野菜の種類、時期、量、規格などと、本市の生産者や出荷状況と、マッチングできなければならない。 |
| 取組の内容 | | <ul style="list-style-type: none"> ○リニューアルし商標登録出願中の「堺のめぐみ」のロゴマークを用い、農産物直売所「またきて菜」などを通じて、生産者への利用促進、消費者へのPRを行う。 ○リニューアルに合わせ、野菜と果樹の品目制限を解除するなど、42品目に限定していた対象品目を大幅に拡大し、「堺のめぐみ」の拡充と浸透を図る。 ○堺産農産物の生産・流通・消費の拡大につながるよう、関係者や民間事業者とも連携し、生産者から堺産農産物を集荷し食品関連事業者へ配送する新たな流通体制の構築をめざす。 ○学校給食の堺産使用率向上に向けて、タマネギなど従来取組んできた野菜について関係者との調整を進めるとともに、新たに堺産大麦を大麦パンに使用する。 |
| スケジュール | 前期 (~7月) | <ul style="list-style-type: none"> □本年度の学校給食用食材の出荷調整(4月~) □「堺のめぐみ」新ロゴマークの使用開始と対象品目の大幅拡大(5月) □新たな流通体制の構築に向け、関係者と協議(5月~) |
| | 中期 (~11月) | <ul style="list-style-type: none"> □新たな流通体制の試験実施に向け、関係者と調整(8月~) □次年度の学校給食用食材の出荷調整及びパン向け大麦の出荷開始(9月~) |
| | 後期 (~3月) | <ul style="list-style-type: none"> □新たな流通体制の試験実施(12月~) |
| | 次年度以降 | <ul style="list-style-type: none"> □新たな流通体制の本格実施に向けた取組 |
| 進捗の状況 | 前期 (~7月) | <ul style="list-style-type: none"> □本年度の学校給食用食材の出荷調整(4月~) □新たな流通体制の構築に向け、関係者と協議(4月~) |
| | 中期 (~11月) | <ul style="list-style-type: none"> □新たな流通体制の試験実施に向け、関係者と調整(8月~) □「堺のめぐみ」新ロゴマークの使用開始と対象品目の大幅拡大(10月) □次年度の学校給食用食材の出荷調整及びパン向け大麦の出荷開始(10月) |
| | 後期 (~3月) | <ul style="list-style-type: none"> □新たな流通体制の試験実施(12月~) |

| | | | |
|------------------|--------------------|--|----------------------|
| 2025 堺市基本計画 | 該当する 施策 | 4- (7) 次世代につなげる農業の促進 | |
| | 寄与する KPI | 市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合（概ね6 か月以内）[現状値：参考値 42.8%（2019年度）] | 目標値（2025年度） 55.0% |
| 未来都市計画 堺市SDGs | 最も貢献する SDGsのゴール | ゴール番号 2 | 飢餓をゼロに |
| | 寄与する KPI | 市内で採れた食材を食べていると答えた人の割合（概ね6 ヶ月以内）[現状値：参考値 42.8%（2019年度）] | 目標値（2023年度） 50.0% |